

第11期 事業報告

I. 奨学金支給事業

当財団は第11期においても、募集要項に活動コンセプトを反映し、土木工学を基礎学問として学び、社会貢献しようとする学生に奨学金を支給しました。

(1) 大学生および大学院修士課程

大学に就学する土木系の学部3、4年生および修士課程1、2年生に対し給付型の奨学金月額5万円を2年間継続して支給するものです。

当期は、第9期生41名の2年目9か月分、第10期生63名の12か月分、および令和2年4月に新規に採用した第11期生76名に対し、3か月分を支給しました。
実績は6,795万円となりました。

(2) 高専本科生および専攻科生

国立高専、公立高専に就学する土木系の本科4、5年生および専攻科1、2年生に対し給付型の奨学金3万円を2年間継続して支給するものです。

当期は第9期生36名の2年目9か月分、第10期生61名の12か月分、追加募集した16名の15か月分、および、令和2年4月に採用した67名に対し3か月分を支給しました。

実績は4,482万円となりました。

(3) 日本で学ぶ外国人留学生

日本の大学院で土木工学を学び、身につけた知見を人の生活の向上や幸福のために最大に活用する、日本と自国の学術文化の相互理解や交流を深める、という当財団の趣旨に同意する外国人留学生に、日本への旅費、奨学金、学費などを支給するものです。奨学金は修士課程及び博士課程の学生を対象とし、月額で14万4千円を基準としています。

土木系留学生を積極的に受け入れている東京大学、埼玉大学、京都大学と協定し支援しています。
当期は、3大学留学生への支援を継続し、実績は、4,001万円となりました。

(4) 海外で学ぶ日本人留学生

当財団は土木系の学生が海外に目を向け、よりグローバルな視点で活躍できることを願っています。日本の大学生がどんどん海外に出て知見を広げていく事業として、官民協働の海外留学支援制度『トビタテ！』グローバル人材育成コミュニティに参画しています。

当期は活動参画1年目となりましたが、寄付実施後、運営幹事会員として留学生選定の民間審査員を派遣するなど理工系学生(特に土木系)が海外を志すことを支援してきました。
実績は1億2,000万円となりました。

なお、この事業は企画記念事業(※)として第10期に決議されたものです。

(※)第9期の活動、資金面の充実に対応して財団活動を強化・拡大するために、中期(3~5年)を目標に新規に実施する事業

II. 研究助成事業

定款の目的に掲げる通り、第11期においても社会資本の維持、長寿命化に関する研究に対する助成を実施しました。

先期に継続して、社会資本の維持、長寿命化に関する研究に対する助成を行いました。この分野を積極的に研究している大学の研究機関に募集要項を送付し、担当する機関の専攻長に若手研究者に対する推薦をいただきました。選考委員会の審査を経て、決定した22件のテーマに対し、200万円を上限に研究助成金として寄付しました。当期は先期の未払い分3件を加え、実績は4,957万円となりました。

III. 地球環境維持活動支援事業

(1) 土木活動支援

財団の定款の目的に掲げる地球環境事業に「人と地球」コンセプトを加味し、土木を通じて地球環境を守る活動を公募し、1件300万円まで、NPO法人等に対して支援しています。

当期は、土木教育により社会インフラを守る「メンテナンスエキスパート養成」という大学の機関等を中心とした市民教育活動、市民啓発活動6件が採択されました。

着手時の助成と完了時の助成を合算し実績は1,660万円となりました。

(2) 土木工学を展開する団体との協同

当財団は、第9期、インフラマネジメント技術の国際展開を支援することで公益社団法人土木学会と合意しています。

当期は、土木学会におけるインフラマネジメント新技術適用推進委員会の国際展開小委員会により、インフラ維持管理の技術と制度を海外展開するための新しい研究助成制度が創設され、12月に10件の案件が採択されました。

日本の土木の知見を代表する土木学会において、国際フィールドを拡大していくことは、この分野での大きな発展につながっていくことが期待されます。実績として、5,000万円の寄付を実施しました。

なお、この事業は企画記念事業として第10期に決議されたものです。

(3) 地球環境維持を展開する団体との協同

当財団は、第9期、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)と覚書を交わし、気候変動などに関する同法人の活動を支援するとともに、高校生などを対象に環境問題を考えさせるプログラムを実施する活動を実施してもらうことになっています。

当期は、WWFにおいて気候変動チームによる国際会議出席や諸調査の実施、企業活動への働きかけが行われました。また、高校生を中心に教育企画が実施され、東京都内で2回、鳥取で1回、計3回、いずれも多数者が参加し地球環境に対する若者の関心の高さが確認され、機会を得たものでした。

実績として、3,000万円の寄付を実施しました。

なお、この事業は企画記念事業として第10期に決議されたものです。

IV. 理事会、評議員会の状況

(1) 理事会

開催年月日	主な議事内容	議事結果
令和 1年 8月23日	第10期事業報告承認の件	原案通り可決
	第10期決算承認の件	〃
	第11期事業計画及び収支予算(変更)承認の件	〃
	理事6名の任期満了選任の件	〃
	評議員会招集の件	〃
令和 1年 9月12日	代表理事選任の件	原案通り可決
	受入株式の株主議決権行使の件	〃
令和 2年 2月28日	第12期事業計画及び収支予算案承認の件	原案通り可決
	評議員会招集の件	〃
令和 2年 6月22日	理事1名選任の件	原案通り可決

(2) 評議員会

開催年月日	主な議事内容	議事結果
令和 1年 9月12日	第10期事業報告承認の件	原案通り可決
	第10期決算承認の件	〃
	第11期事業計画及び収支予算(変更)承認の件	〃
	理事6名を選任する件	〃
令和 2年 3月18日	第12期事業計画及び収支予算の承認	原案通り可決
令和 2年 6月30日	理事1名選任の件	原案通り可決

V. その他

(1) 寄付金に関する事項

第11期中における寄付金の受入はありません。

(2) 指定正味財産に関する事項

特に記載する事項はありません